



年 組 名前

道新ワークシート

北大で見つかったバイカルハナウドとみられる葉(環境省提供)



バイカルハナウド？

毒性植物？ 見分け困難 在来種？

強い毒性があるとされる国内未確認のセリ科植物「ジャイアント・ホグウィード(和名バイカルハナウド)」とみられる植物が見つかったとの情報が、北海道内の各地で相次いでいる。見分けが難しい、毒性が弱いとされる在来種の「オオハナウド」と混同している事例が目立つという。ただ、バイカルハナウドであれば皮膚炎など健康被害を招く可能性もあり、専門家は見分け方を示すなど注意を呼びかけている。

バイカルハナウドとみられる植物は最初に6月25日、北海道大構内で見つかった。7月1日には札幌市白石区でも発見され、付近の20株を除去した。北大によると、白石区の植物は北大構内で発見されたものと同種の可能性が高いという。

在来種のオオハナウドの葉(環境省提供)



オオハナウド



オオハナウド(川崎映さん提供)

相次ぐ情報

花は酷似 ギザギザ葉の切れ込みに違い

部は通学路に近いため注意喚起した。網走市や恵庭市、帯広市でも4日にかけて同様の連絡が相次いでいる。いずれも品種の特定はできていないが、中には一見して別の植物のケースもあるという。

環境省北海道地方環境事務所には、こうした情報提供が自治体などから寄せられ、対応に追われており、北大で見つかった植物の拡大写真や同じセリ科の在来種との見分け方を3日にホームページで公開した。

西アジア原産のバイカルハナウドは、成長すると高さ約3メートルになり、切れ込みの深いギザギザした葉が特徴。植物の液体が皮膚に触れた状態で太陽光を浴びると、炎症を引き起こす事例が海外で報告されている。

花は白色の小さな花が集まった形状で、セリ科に似ている植物が多い。特に在来種のオオハナウドとの判別が難しいという。同事務所野生生物課は「オオハナウドの方が葉のギザギザが幅広い傾向がある。ただ、個体で違う場合もあり、疑わしい場合は近づかないでほしい」と呼びかける。

北大はバイカルハナウドかどうか調べていたが、「原産地でも他品種と混同される例があり、海外から信頼できる標本の入手が難しい」などとして3日に作業を打ち切った。皮膚炎を起こす成分が含まれている可能性があるため、毒性の有無については調査が続ける。

北大でバイカルハナウドとみられる植物を見つけ、交流サイト(SNS)を通じて情報発信をした恵庭市の生物画家川崎映さん(33)は「海外では毒性がある植物の特徴を詳細に周知しており、環境省と情報共有して各自自治体ごとに情報を発信してほしい」と話す。

(矢野旦、芝垣なの香)



年 組 名前

道新でワークシート

(1) 記事の本文に使われている次の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

① 在来種

② 相次ぐ

③ 招く

①	②	③
---	---	---

(2) 記事の内容として、適切であれば○、適切でなければ×と答えなさい。

- ① バイカルハナウドには強い毒性があるが、オオハナウドは無毒である。
- ② オオハナウドは日本に自生しているが、バイカルハナウドは今まで国内で発見されていなかった。
- ③ 北大構内の植物は、未だにバイカルハナウドだと断定されていない。
- ④ 白石区で見つかった植物は、北大のものと同種の可能性が高かったため、除去された。
- ⑤ 北見市や網走市などでもバイカルハナウドに似た植物の報告があり、全て見分けが難しいものだった。
- ⑥ バイカルハナウドは、葉のギザギザが幅広い傾向がある。

①	②	③	④	⑤	⑥
---	---	---	---	---	---

(3) もしあなたがバイカルハナウドらしき植物を見つけたら、どのような行動をとるべきだと考えますか。記事の内容に合った行動を心掛けて答えなさい。